

社会科シラバス 高校3年

1. 学習の到達目標と評価の観点

(科目) 日本史演習	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	3 単位	第3 学年	・『WinningCOM. -PASS 日本史の整理と演習 2025』とうほう(主要教材) ・『日本史探究』実教出版(教科書) ・『新詳日本史』浜松書店(図説)
学習の到達目標	・資料の読み取りを通して真理を追究していこうとする姿勢や、得られた知識・技能を実社会に役立てようとする意欲を養う。〔Science〕 ・世界全体を俯瞰するグローバルな視点と地域の問題を掘り下げて把握するローカルな視点を併せ持つ柔軟な思考力を養い、それに関する自分の考えや価値観を発信できるとともに、社会の中で自身に求められている役割を認識する。〔Global〕 ・探究心を持ち、物事を論理的にとらえ、現在世界各地で起きている問題を歴史的な視点から読み解き、よりよい解決策を導き出す。また、その解決策を実行するために、他者の意見を尊重しながら協働できる人間になる。〔Liberal Arts〕		
評価の観点	授業に前向きに取り組み、知識を活用し、他者と協働しながら、その疑問を解決しようとする姿勢がある。＜主体性・多様性・協働性＞		
	日本の歴史を学びながら、それぞれの出来事をくらべたり、複数地域のつながりや影響を探究し、自分の考えを発信することができる。項目をただ暗記するのではなく、「原因→経過→結果」という因果関係をつかむことで、社会を動かす躍動感を体感する力をつける。＜思考力・判断力・表現力＞		
	諸課題の形成過程について考察したり、資料を読みとるために必要な知識・技能を身につけられている。＜知識・技能＞		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの
 B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
 C：「努力を要する」状況と判断されるもの
 D：未提出，未実施

2.学習内容及び評価方法

時期	単元	学習のねらい・到達目標
1 学期 中間	古代史、中世史の総復習 第 1 章～第 5 章まで	○問題演習を通して、既習範囲を大まかに確認していく。 ○論述問題、グループワークなどに取り組み、思考力、表現力、判断力の養成を促す。
1 学期 期末	中世史の総復習 第 6 章～第 8 章まで	○問題演習を通して、既習範囲を大まかに確認していく。 ○論述問題、グループワークなどに取り組み、思考力、表現力、判断力の養成を促す。
2 学期 中間	近世史、近代初期の総復習 第 9 章～第 11 章まで	○問題演習を通して、既習範囲を大まかに確認していく。 ○論述問題、グループワークなどに取り組み、思考力、表現力、判断力の養成を促す。
2 学期 期末	近代史の総復習 第 12 章～第 15 章まで	○問題演習を通して、既習範囲を大まかに確認していく。 ○論述問題、グループワークなどに取り組み、思考力、表現力、判断力の養成を促す。

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
学習範囲を主体的に復習している。＜主体性＞	毎時間実施する小テスト
設定された課題に対する自分の考えを、他者にも読み取れるように適切に説明することができる。＜思考力・判断力・表現力＞	グループワーク
歴史的な知識を身につけられている＜知識・技能＞	定期考査 毎時間実施する小テスト

【成績評価の概要について】

(1)学期における評価の対象

- ①各学期に実施する定期考査（200 点満点）
- ②毎回の授業で実施する小テスト（1 回 20 点満点、毎学期 20 回以上実施）
- ③毎回の授業でのグループ活動における主体性

上記を総合的に判断して評価する

(2)学期評定の算出方法

学期ごとに、上記(1)①・②を総合して評定を算出する。

- ・すべての点数の総合計を 100 点満点に圧縮して評定を算出する。
- ・定期考査と各授業で実施するすべての小テストについて、欠席の場合は 0 点となる。ただし、テスト実施後に当該生徒に対して、担当教員が後日問題を渡す（場合によってはクラスルーム、ロイロノートで送信する）ので提出があれば、小テストの場合は採点した結果の半分の、定期考査の場合は参考点を算出(参考点は受験した他の考査素点も参考として算出する)して成績に反映する。ただし、公欠による欠席の場合はこの限りではない。

(3)学年評定の算出方法

①定期考査

②毎授業ごとに実施する小テスト

→以上、各学期で実施したすべての素点を足したものを 100 点満点に換算して評定を算出する。